

奈良国立文化財研究所概要



目 次

沿 革 付年表	1
組 織	2
機 構	2
定 員	2
役 職 職 員	3
予 算	3
歳 出 予 算	3
科学研究費補助金	3
施 設	4
土地及び建物	4
事 業	5
建造物研究室	5
歴史研究室	5
平城宮跡発掘調査部	6
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	7
飛鳥資料館	8
埋蔵文化財センター	9
普及活動	10
公開講演会	10
現地説明会	10
刊 行 物	10
蔵書及び資料	12

沿革

奈良国立文化財研究所は、文化財保護委員会（現、文化庁）の附属機関として文化財に関する調査研究、資料の作成及びその公表を行うことを目的として昭和27年4月奈良市春日野町50番地に設置された。設立の発端は、吉田茂首相が奈良県視察の際、南都諸大寺に伝わる文化遺産のすばらしさを目のあたりにし、これらの文化財を保護宣揚するため、現地における美術学校又は美術研究所設置の構想をもたれたことによるといわれ、当初は、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室、庶務室の4室で充足した。

その後、昭和35年10月には平城宮跡発掘調査事務所（現、平城宮跡発掘調査部）、昭和45年4月には飛鳥藤原宮跡調査室（現、飛鳥藤原宮跡発掘調査部）が、さらに昭和48年4月には飛鳥資料館、昭和49年4月には埋蔵文化財センターの設置をみて今日に至っている。

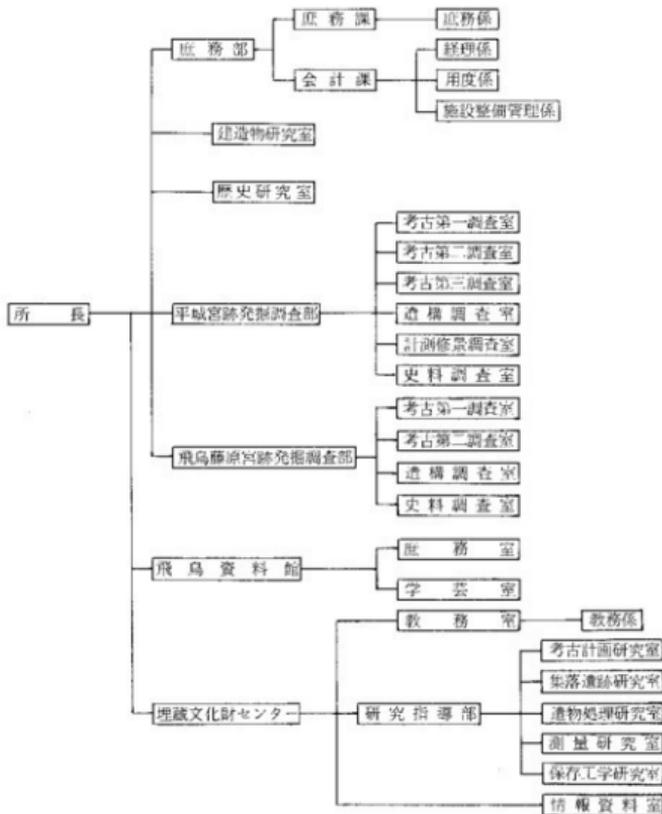
年表

昭和26.10.6	奈良文化財研究所設置準備規程（文化財保護委員会裁定第11号）により設置準備会発足。
27.4.1	文化財保護委員会の附属機関として奈良文化財研究所（庶務室、美術工芸研究室、建造物研究室、歴史研究室）設置。
29.7.1	奈良国立文化財研究所と改称。
35.10.15	平城宮跡に発掘調査事務所設置。
36.9.16	庶務室は庶務課となる。
38.4.10	平城宮跡発掘調査部が設けられる。
39.4.1	同調査部に第一～第三調査室、保存整理室、史料調査室を置く。
40.4.1	同調査部に新たに第四調査室を置く。
43.6.15	文化庁発足、その附属機関となる。
45.4.15	平城宮跡資料館開館。
45.4.17	平城宮跡発掘調査部の組織を考古第一～考古第三調査室、遺構調査室、計測修景調査室、史料調査室、飛鳥藤原宮跡調査室と改める。
48.4.12	会計課、飛鳥藤原宮跡発掘調査部（第一調査室、第二調査室）、飛鳥資料館（庶務室、学芸室）設置。
49.4.11	庶務部（庶務課、会計課）、埋蔵文化財センター（教務室、考古計画研究室、測景研究室）設置。
50.3.15	飛鳥資料館開館。
50.4.2	埋蔵文化財センターに研究指導部設置。同部に遺物処理研究室新設。
51.5.10	埋蔵文化財センター研究指導部に集落遺跡研究室新設。
52.10.1	埋蔵文化財センター研究指導部に保存工学研究室新設。
53.4.5	飛鳥藤原宮跡発掘調査部の組織を考古第一調査室、考古第二調査室、遺構調査室、史料調査室と改める。
53.10.1	埋蔵文化財センターに情報資料室新設。
55.4.5	美術工芸研究室を奈良国立博物館（仏教美術資料研究センター）に移換。
55.4.26	庁舎移転（奈良市二条町）、併せて平城宮跡発掘調査部、埋蔵文化財センターを庁舎に統合。

組 織

昭和56年4月1日現在

機 構



定 員

区 分	指 定 職	行 政 職 (〒)	行 政 職 (□)	研 究 職	計
人 員	1	22	6	67	96

役職職員

所長	坪井清足										
庶務部	部長 森春見	庶務課	課長 三吉	森山	武保	雄英	室	務計	課長	三吉	森山
建造物研究室											
歴史研究室	室長 事務 取扱 坪井清足										
平城宮跡発掘調査部	部長 岡田美男	考古学	第1課	調査室	長長長	工森山	栗木	善郁	二長	通夫	高郎
飛鳥藤原宮跡発掘調査部	部長 狩野久	考古学	第2課	調査室	長長長	工森山	栗木	善郁	二長	通夫	高郎
飛鳥資料館	館長 坪井清足	庶務課	課長 坪井清足	庶務課	課長 坪井清足	庶務課	課長 坪井清足	庶務課	課長 坪井清足	庶務課	課長 坪井清足
埋蔵文化財センター	センター長 田中 麻										
研究指導部	部長 佐原 真	教育	課長 佐原 真	資料	室長 佐原 真	研究	室長 佐原 真	調査	室長 佐原 真	保存	室長 佐原 真

予 算

歳出予算

(単位 千円)

区 分	54 年度	55 年度	56年度(当初)
人 件 費	381,976	398,830	422,053
運 営 費	550,260	580,298	613,109
施設 費	227,879	359,445	310,892
臨時的経費(庁舎統合) 移転	434,951	49,514	24,600
計	1,595,066	1,388,087	1,370,654

科学研究費補助金

() 審きは件数(単位 千円)

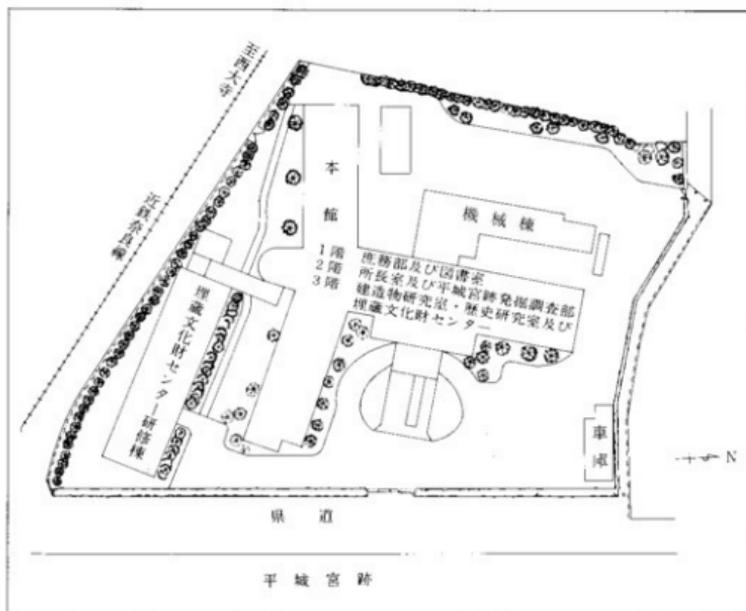
区 分	53 年度	54 年度	55 年度
特 定 研 究 (I)	(5) 13,600		(3) 13,000
一 般 研 究 (A)	(1) 500	(1) 19,000	(1) 6,000
	(B) (1) 800	(1) 3,000	
	(C) (4) 3,900	(5) 5,080	(4) 2,300
	(D) (3) 1,240	(4) 1,760	(2) 920
奨 励 研 究 (A)	(5) 1,790	(7) 4,600	(4) 3,100
計	(19) 21,830	(28) 33,440	(24) 25,320

施設

昭和56年4月1日現在

土地及び建物

名称	土地面積	建物面積		備考
		建面積	延面積	
本館	8,860 <i>m</i> ²	2,538 <i>m</i> ²	6,539 <i>m</i> ²	
平城宮跡	986,054	8,017	10,838	土地……文部省所管 建物……平城資料館及び覆屋
藤原宮跡	206,304			土地 文部省所管 200,609 <i>m</i> ² 民有地借上 5,695 <i>m</i> ²
飛鳥資料館	17,092	1,465	2,682	
旧米谷家	298	175	198	民有地借上 重要文化財
春日野旧庁舎	5,126	1,211	1,443	
宿舎	1,654	334	378	
飛鳥資料館 部	1,343	225	225	土地 231 <i>m</i> ² 大蔵省所管を含む
部	311	109	153	
合計	1,225,388	13,740	22,078	



本館配置図

事業

建造物研究室

建造物及び伝統的建造物群に関する調査研究とその結果の公表を行う。



江戸時代商家

建造物の調査

歴史研究室

考古、史跡及び古社寺等に伝存する古文書、典籍等歴史資料に関する調査研究とその結果の公表を行う。



古文書等の調査

平城宮跡発掘調査部

奈良時代70余年の帝都として栄えた平城宮跡等の発掘、調査研究を行うとともに出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。

さらに発掘調査済の地域等について、遺構そのものが理解しやすいように修景整備し、あるいは遺構、遺物等を展示する等して一般に公開している。



平城宮跡全景



発掘された奈良時代の石敷井戸とその復元露出展示

飛鳥藤原宮跡発掘調査部

日本で初めて律令国家体制が形成され飛鳥文化が開化した時代の中心的地域である藤原宮跡及び飛鳥地域における宮跡その他の遺跡の発掘、調査研究を行うとともに、出土した木器・金属・土器・瓦・木簡・遺構等の保存整理・遺構の計測・修景及びこれらに関する調査研究並びに史料の収集及び調査研究とこれらの結果の公表を行う。



藤原宮跡大極殿周辺（左上方は天香久山）



水落遺跡の発掘(石敷・石組施設は飛鳥の遺跡の特色である)



出土遺物の整理



土器の復原

飛鳥資料館

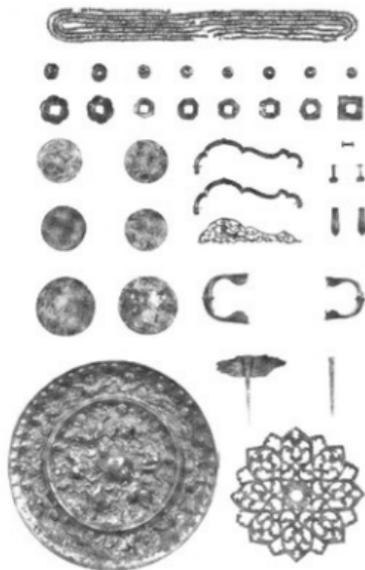
飛鳥地域に関する考古資料、歴史資料、建造物、絵画、彫刻その他の資料を収集保管し、調査研究するとともに、飛鳥地域の歴史的意義及び文化財に関し、一般の理解を深めるためこれらを展示して公衆の観覧に供している。



飛鳥資料館全景



石人像（重要文化財）
飛鳥時代の庭園に使われた噴水



高松塚から出土した飾金具と鏡（重要文化財）

埋蔵文化財センター

埋蔵文化財に関し、調査研究及びその結果の公表を行うとともに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体等の求めに応じ、専門的、技術的な指導・助言を、また埋蔵文化財に関する情報資料の作成、収集、整理、保管並びに調査研究を行い、これらについても広く地方公共団体等の利用に供している。

さらに、埋蔵文化財の調査、保存整理に関し、地方公共団体の職員等に対し技術的な研修を行っており、研修の主な課程は次のとおりであり、昭和55年度までの受講者累計は886名である。

区 分	課 程	区 分	課 程
一 般 研 修	一般課程	専 門 研 修	遺物保存科学課程
専 門 研 修	遺跡測量基礎課程	”	自然遺物課程
”	遺跡測量応用課程	”	遺物整理課程
”	遺跡保存整備課程	特 別 研 修	埋蔵文化財基礎課程
”	縄文・弥生遺跡調査課程	”	特別調査技術課程
”	歴史時代遺跡調査課程		



研 修 風 景



P.E.G含浸装置 ポリエチレングリコールを使用し、木材、木器等を永久保存するための処理装置



写真測量図化機 ステレオメトログラフE型を使用して実測図を作成する

普及活動

(1) 公開講演会

調査研究の結果を一般に公表する一端として毎年春と秋に行っており、最近の講演は次のとおりである。

講演回数	演 題	講演回数	演 題
45 回 (54.5.19)	古代文献史料にみられる土器 斑鳩の瓦工たち	47 回 (55.5.24)	軒瓦製作技法に関する二三の問題 東大寺文書の起請文について
46 回 (54.11.17)	郡衙遺跡をめぐる諸問題 イタリアにおける町並保存	48 回 (55.11.15)	C.J.Thomsenの再評価 平城京と京東条里

(2) 現地説明会

発掘調査を行った現地を一般に公開し、調査研究の成果を公表している。

説明会年月日	発掘調査場所	説明会年月日	発掘調査場所
54. 5.26	平城京左京三条四坊七坪	55. 3. 8	平城宮跡第120次
7.21	山田寺第3次	5.31	平城宮跡第122次
8.26	平城宮跡第119次	7.19	藤原宮跡第29次
9. 8	大宮大寺第6次	9.13	松原寺跡
9.19-20	美師寺東僧房	9.27	平城宮跡第126次
11.24	藤原宮跡第27次	11.22	平城宮跡第127次
12. 1	平城宮跡第117次	56. 3.14	平城宮跡第128次

(3) 刊行物

イ、学 報

年度	名 称	年度	名 称
1954	第1冊 仏師運慶の研究	1973	第22冊 研究論集Ⅱ
	第2冊 修学院離宮の復原的研究	1974	第23冊 平城宮発掘調査報告Ⅵ 平城京左京一条二坊の調査
1955	第3冊 文化史論叢		第24冊 高山一町並調査報告一
1956	第4冊 奈良時代徳房の研究	1975	第25冊 平城京左京三条二坊
1957	第5冊 飛鳥寺発掘調査報告		第26冊 平城宮発掘調査報告Ⅶ
1958	第6冊 中世庭園文化史		第27冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅰ
	第7冊 興福寺食堂発掘調査報告		第28冊 研究論集Ⅲ
1959	第8冊 文化史論叢Ⅱ		第29冊 木宮泰良井一町並調査報告一
	第9冊 川原寺発掘調査報告	1976	第30冊 五冬一町並調査の記録一
1960	第10冊 平城宮跡・伝飛鳥板蓋宮跡発掘調査報告	1977	第31冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅱ
1961	第11冊 院家建築の研究		第32冊 研究論集Ⅳ
1962	第12冊 巧匠安阿弥陀仏快遷		第33冊 イタリア中部の山岳集落における民家調査報告
	第13冊 嵯峨遺承庭園の立地的考察		第34冊 平城宮発掘調査報告Ⅷ
	第14冊 レースと金堂舍利塔に関する研究	1978	第35冊 研究論集Ⅴ
	第15冊 平城宮発掘調査報告Ⅱ 官衙地域の調査		第36冊 平城宮整備調査報告Ⅰ
1963	第16冊 平城宮発掘調査報告Ⅲ 内裏地域の調査	1979	第37冊 飛鳥・藤原宮発掘調査報告Ⅲ
1965	第17冊 平城宮発掘調査報告Ⅳ 官衙地域の調査		第38冊 研究論集Ⅵ
	第18冊 小堀遠州の作事		
1967	第19冊 藤原氏の氏寺とその院家		
1969	第20冊 名物製の成立		
1971	第21冊 研究論集Ⅰ		

口、史料

年度	名	称	年度	名	称
1954	第1冊	南無阿弥陀仏作善集 (複製)	1976	第11冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅲ
1955	第2冊	西大寺叢尊伝記集成	1977	第12冊	藤原宮木簡1 図版・解説
1963	第3冊	仁和寺史料 寺誌編1	第13冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅳ	
1964	第4冊	後梁坊重源史料集成	1978	第14冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅴ
1966	第5冊	平城宮木簡1 図版	第15冊	東大寺文書目録第1巻	
1967	第6冊	仁和寺史料 寺誌編2	1979	第16冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅵ
1969	第7冊	平城宮木簡1 解説 (別冊)	第17冊	平城宮木簡3 図版・解説	
1970	第7冊	唐招提寺史料1	第18冊	藤原宮木簡2 図版・解説	
1974	第8冊	平城宮木簡2 図版・解説	第19冊	東大寺文書目録第2巻	
1975	第9冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅰ			
	第10冊	日本美術院彫刻等修理記録Ⅱ			

ハ、飛鳥資料館図録

ニ 基準資料

年度	名	称	年度	名	称
1976	第1冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏	1973	第1冊	互編1 解説
	第2冊	飛鳥白鳳の在銘金銅仏 銘文篇	1974	第2冊	互編2 解説
1977	第3冊	日本古代の墓誌	1975	第3冊	互編3
1978	第4冊	日本古代の墓誌 銘文篇	1976	第4冊	互編4
	第5冊	古代の誕生仏	1977	第5冊	互編5
1979	第6冊	飛鳥時代の古墳—高松塚とその周辺—	1978	第6冊	互編6
			1979	第7冊	互編7

ホ、地図 (大標尺図、縮尺1:1,000 航空写真より図化)

区分	図化面数	図	化	地	域
平城京地域	60	押熊、桑原、中山、外山、秋篠、山陵、西畑、歌姫、コナベ、ウフナベ、野神、西大寺、平城京 _北 、法華寺、不遇寺、佐保、法蓮、東大寺 _北 、宝来、菅原、尼ヶ辻、北新、田村、蔵ノ町、二条、興福寺、春日野、平松、唐招提寺、八条、柏木、八島田、大安寺 _北 、京終、元興寺、紀寺、大池、薬師寺、西ノ京、杏、八条、神殿、射塚、大蔵院、西市、観音寺、羅城門、西九条、東九条、北永井、登坂、野原内、下三橋、上三橋、北ノ庄、今市、帯解			
下ノ道地域	42	大師、若槻、美濃庄、井戸野、池田、蔵ノ庄、番条、中条、発志院、馬司、伊豆七条、南八条、中、宮堂、二階堂、西處幡、嘉幡、地治、萬幡、石見、唐古、八尾、鍵、田原本、阪手、南阪手、秦ノ庄、多、笠鐘、新口、西垣内、額田部、額田部北方、窪田北区内、穴間、長条、保田、唐院、沢、大野、小柳、大場			
飛鳥藤原地域	36	耳成山、今井(北)、小房、鶴公、高殿北部、駒夫、木殿、飛野、高殿、天香久山、丈六、田中、雷、奥山、山田寺、見瀬、和田、豊浦、飛鳥寺、八約、越野口、立部、橘寺、岡寺 _北 、真弓、松前、上平田、祝戸、敷田、観音寺、栗原、大根田、東常門			
計	138	その他、編集図 (縮尺1:2,000) 平城宮跡、藤原宮跡、藤原京 _西 、五条野、飛鳥			

蔵書及び資料

蔵書

55,299 冊(昭和55年度末現在)

区分	種別	購入	寄贈	計
55年度	和漢書	1,512	2,926	4,438
	洋書	290	57	347
累計	和漢書	28,823	22,664	51,487
	洋書	3,310	502	3,812

資料

204,339 点(昭和55年度末現在)

区分	キャビネ	スライド	ライカ	ブローニー	マイクロフィルム	その他	計
55年度	3,055	3,285	3,140	2,055	2	898	12,435
累計	68,916	53,738	38,550	23,974	1,643	17,518	204,339



第三書庫 地図、実測図、拓本、航空写真ロールネガなどを保管

飛鳥藤原京・平城京関係略年表

西 暦	年次・年号	事 項	西 暦	年次・年号	事 項
552	欽明13	仏教伝来	710	和銅 3	平城京に遷都。興福寺創建
588	崇峻 1	飛鳥寺を造り始める	711	4	大宮大寺焼失
593	推古 1	推古天皇豊浦宮に即位	716	霊龟 2	大安寺移建
601	9	聖徳太子斑鳩宮を造る（夢殿の地）	718	養老 2	薬師寺・元興寺移建
603	11	小墾田宮に遷る	730	天平 2	薬師寺東塔建立
606	14	坂田寺を造る	739	11	法隆寺夢殿、仏法堂建立
607	15	法隆寺創建	740	12	飛仁京に遷都。平城大極殿等を運ぶ
630	舒明 2	飛鳥岡本宮に遷る	744	16	難波の宮を都とする
636	8	飛鳥岡本宮焼失、田中宮に遷る	745	17	平城京に遷都。法華寺創建
639	11	大宮大寺を造り始める	752	天平 勝宝 4	東大寺大仏開眼供養
640	12	百濟宮に遷る	755	7	平城宮改作
641	13	山田寺を造り始める	756	8	聖武天皇77忌に造品を東大寺等に納める（正倉院の始まり）
642	皇極 1	小墾田宮に遷る	759	天平 宝字 3	唐招提寺創建。平城宮東朝集殿を唐招提寺に移入
643	2	飛鳥板蓋宮に遷る	761	5	平城宮改作
645	大化 1	難波長柄杓宮に遷る	765	天平 神護 景雲 1	西大寺創建
653	白雉 4	中大兄皇子・皇極等と飛鳥河辺行宮に遷る	767	1	西隆寺創建。東院玉殿完成
655	斉明 1	飛鳥板蓋宮焼失、川原宮に遷る	784	延暦 3	長岡京に遷都
656	2	飛鳥岡本宮に遷る	794	13	平安京に遷都
667	天智 6	近江大津宮に遷る			
670	9	法隆寺焼失			
672	天武 1	飛鳥浄御原宮に遷る			
680	9	薬師寺を興す。橋寺焼失			
691	持統 5	藤原京地鎮祭			
694	8	藤原京に遷都			

（表紙紙写真）鬼面文鬼瓦

平城宮の推定第二次内裏西外郭から出土した鬼面の鬼瓦。高さ約40cmあり、平城宮で最大の鬼瓦。天平年間に造営された内裏地域の建物の屋根を飾った。

奈良国立文化財研究所概要

発行日 昭和56年4月20日
発行 奈良国立文化財研究所

